

事業所訪問の第八回は、成田市に所在する成田運送株式会社にお邪魔しました。師走に入ったばかりの十二月四日。空の玄関、成田空港の第二ターミナルビルのオープンも間近に迫り、ますます国際色を増すこととなる成田市の南部に成田運送はありました。大通りに面しており、立地条件の大変良いところにあります。聞くところによると近隣に将来、鉄道の駅が建設される予定もあるとのことです。

陽光の降り注ぐ中、目的地に到着し、二階の事務室に足を運びました。「こんにちは健保組合です！」とあいさつすると、組合の健康管理委員でもあり、保健施設事業の一環として実施している事業所対抗野球大会に参加し、名選手でもある金子課長が応対してください「ようこそ！」と社長室に案内してくださいました。社長室に入室すると、組合の役員でもある金子社長が執務されていた。私たちがあいさつすると「やあ！」と、いつもどおりの迫力のある元気な発声とともに、丁寧なあいさつをいただきました。

社長室は、大変明るく暖かい部屋（冬でも晴天の日には暖房がほとんとのないよう徹底されていますが、私たちが興味をもったのは、会議の会食のメニューはいつも「カツ重」だということ。仕事に勝つ・相手に勝つ・自分に勝つ等、何でも勝たなければならないという姿勢からだそうです（いかにも社長らしいアイデアだと私たちは納得しました）。最後に、印旛支部の支部長も務められ、成田運送の社員はもとより、その家族に対しての責任も抱える立場にある社長自身の健康法についてお聞きすると、かなり気をつけておられることがわかりました。

こんにちは

健保組合です！

事業所訪問

「成田運送株」の巻

ど不要だそうです」で、応接セットのテーブルに飾られたシクラメンの鮮やかな色が目に飛び込んできました。

しばし雑談のあと、成田運送の沿革などについての話題となりました。成田運送株式会社は元来、社の藤崎会長が所有する山林の木材運搬を目的に、運送部門がスタートしたそうです。山林は百数十町歩にのぼったそうであり、現在、会長は、丸山グループ（藤崎家の屋号とお聞きしました）と称する関連一社の総帥を務められており、業績はもとより、グループの団結力はすばらしいものと推察できました。

金子社長は「会長は、私の経営に全面的に信頼を寄せてくれており、信念も相通づるものがある」とおっしゃり、会長の度量の大きさに敬服しておられました。

また、帝王学を学ばれ師と仰ぐ方がおられたそうです。そのエピソードをお聞きすると、昭和四十四年に就任されて間もなく、仕事の関係でその方と出張の機会があったことでのした。そのときの、「社のトップたるものは公私混同してはならない」という徹底した態度に感銘を覚えたということでした。氏が他界したときには、恥ずかしながらあふれるものを抑え切れなかったと話され

朝は欠かさずオリジナル体操を履行されているとのこと。また、激務に対応できるようなコンディションづくりを常に心がけておられるそうです。自己の容量が100であれば、150必要な日の前日には50をセーブするというように、健康管理はその前後にありというのが持論だそうです。

つい無理をしがちな現代人にとつて、自己の健康管理がおざなりになり、結局は健康を害することによって、自分ばかりでなく家族や、広義で社会に迷惑をかけてしまうことが

取りざたされているときに、社長の考え方は、すべての責任において健康管理を全うしていると実感しました。

金子社長は、社員の教育においても社の経営方法においても、まだまだ勉強不足でやり残したことはたくさんあると謙遜されましたが、夢をもって、バイタリティあふれる行動力でぐんぐん社員をリードしていかれることは、まちがいありません。将来、ジャンボジェットのように大きく飛翔する企業へと、ますます発展することでしょう。こうして、大変興味深い会話に終

▼金子社長(右)と金子課長



ましたが、金子社長の思い入れがひしひしと伝わってきたことはいずれでもありません。

金子社長は、軍隊や公務員・民間他社も経験され、いろいろなお苦勞をしてこられたようですが、この職制を得て、氏の苦勞・経験を生かしながら、さまざまな斬新なアイデアをもって常に社とともに邁進しているとおっしゃいました。

毎月定期的に開催している安全会議では、健康・協調・責任・融和・信頼などのスローガンを掲げて、事故防止については過ちを繰り返すこと

開始、貴重な時間を割いて取材にご協力いただいた役職員の方々にお礼を述べて、取材を終えました。皆さんありがとうございます。（帰り際に廊下で、対談の話題にもさせていただいた藤崎会長に幸いにもお会いすることができました。とても温和そうで紳士という印象を受けました。）

私たちは取材を終え帰路につきました。二〇世紀もあとわずか、来年はどんな年になるのでしょうか。皆さん、干支の西のように大きな飛躍の年にしてください。